

平成 27 年度
八重山・台湾における
国境観光フーズビリティ調査
報告書（抜粋）

平成 28 年 2 月

（公財）九州経済調査協会

目 次

はじめに.....	1
1. 八重山・台湾国境観光実現に向けた関係者への働きかけ	2
2. モニターツアーの企画・検討.....	7
3. 八重山・台湾国境観光の実現に向けた課題分析.....	11
4. 今後の取組予定.....	13
5. 講演・報告資料.....	14

はじめに

(1)調査対象地域、ターゲットの絞り込み

- ・ 八重山・台湾国境観光では、八重山地域(石垣市・竹富町・与那国町)と台湾とを結び、両地域を同時に訪問することで国境ならではの観光魅力を創出することを目指している。
- ・ 本来、八重山地域の中で最も国境らしさを認識できるのは与那国町であるが、現在は与那国島と台湾との間に定期航路が就航しておらず、与那国島に訪問する際は石垣～与那国間を飛行機で往復する必要があり、ツアーの訪問地として組み込むことが難しいことから調査対象から除外した。
- ・ ツアーの内容は、一般旅行者の参加を念頭に置き検討を行う。先行調査として平成 25 年 12 月に実施した「対馬・釜山国境観光モニターツアー」では参加者の大多数を一般旅行者が占めたが、それ以外ではまだ一般参加者が主体の国境観光は実現できていない。また、前述の対馬・釜山モニターツアーについても、割安な旅行代金を設定することで旅行者が集まった経緯があり、旅行商品として実現可能な価格で一般旅行者が集まることを実証できない限りは、旅行会社や航空会社が国境観光実現に向けた取組に主体的に関与することはないと思料するためである。

(2)調査項目の検討

- ・ 本調査では、八重山・台湾国境観光の実現に向け、八重山・台湾両地域の自治体や観光関係者のほか、一般旅行者の集客のために必要な在京旅行会社や航空会社等も巻き込み、国境観光実現に向けた取組を行った。
- ・ 具体的には、①八重山・台湾国境観光の実現に向けた関係者への働きかけ、②モニターツアーの企画・検討、③八重山・台湾国境観光の実現に向けた課題分析、の3点について調査を行った。また、④今後の取組予定についても考察した。
- ・ また、その内容については、2016 年 2 月 13 日に根室市で開催された境界地域研究ネットワーク JAPAN(JIBSN)根室セミナーにおいて、「南のボーダーツーリズムー八重山から台湾へ」と題して報告を行った。その内容については、⑤講演・報告の資料をまとめて文末に掲載した。

1. 八重山・台湾国境観光実現に向けた関係者への働きかけ

八重山・台湾国境観光の実現に向けた取組は、2014 年度より始まったものである。2013 年度に実施した対馬・釜山国境観光モニターツアーの成果を、北海道大学グローバル COE プログラム「境界研究の拠点形成」ファイナルシンポジウム(2014 年 2 月)において報告を行い、同シンポジウムに参加していた竹富町企画財政課・小濱啓由氏に八重山・台湾地域での展開を提案したことに始まる。その後、竹富町での事業予算確保を経て、2014 年度より九経調と竹富町の共同研究による八重山・台湾国境観光の実現に向けた可能性調査が始動した。

【2014 年度】

■在京旅行会社の巻き込み(省略)

■八重山関係者の巻き込み(省略)

■航空会社の巻き込み(省略)

■与那国町の巻き込み(省略)

■実施時期の延期

- ・ 関係者との協議を行い、モニターツアーのコンテンツの検討を進めていたところ、中華航空沖縄支店から連絡があり、現在夏季限定運航中の石垣ー台北便を冬季も運航継続する計画があり、モニターツアーの実施も冬季にしてみないかとの打診を受けた。もともと八重山台湾ボーダーツーリズムの意義として「夏場に頼らない通年での八重山観光の魅力創出」を掲げていたこともあり、冬季の実施は試金石となることから提案を承諾し、冬季に改めて実施するというで計画を変更した。
- ・ しかし、実際に冬季運航が始まったものの、中華航空が事前に想定した以上に搭乗客が少なく、運航継続から1カ月後の11月末には冬季運航の中止が発表されることとなった。これにより、2014年度のモニターツアー実施は不可能となった。

■事前調査の実施

- ・ モニターツアーの実施が延期になったことで、急ピッチで進めてきたツアー企画の内容を深化させる時間が生まれた。そこで、境界研究者3名で八重山・台湾地域を訪問し、モニター

ツアー企画のための事前調査を行うこととした。

- ・ 事前調査は、九経調・島田、九州大学・花松泰倫講師、日本文理大学・舛田佳弘准教授（前・与那国町職員）の3名で実施した。なお、中華航空石垣—台北便運休期間中の実施であるため、八重山・台湾間を直接渡航することができず、定期運航中の那覇—台北便を利用することで代替した。

<行程>

1日目 3/2(月)	福岡—(飛行機)—那覇—(飛行機)—石垣島【名蔵集落】…石垣島泊
2日目 3/3(火)	石垣島—(船舶)—西表島【ウタラ炭坑、由布島】—(船舶)—竹富島【竹富集落】—(船舶)—西表島—(飛行機)—那覇—(飛行機)—台北…台北泊
3日目 3/4(水)	台北—(バス)—基隆【原住民文化会館、和平島】—(バス)—九份【九份】—(バス)—台北【寧夏夜市】…台北泊
4日目 3/5(木)	台北【台北教育大学、沖縄県産業振興公社台北事務所】—(飛行機)—福岡

- ・ 事前調査は、モニターツアーのコンテンツを探すことを目的として実施した。具体的には、八重山・台湾両地域を「あわせて見る」ことが単独で見るよりも魅力が高いもの、例えば両地域共通の歴史・文化であったり、台湾から八重山に伝来した文化などが考えられる。八重山でのコンテンツは竹富町商工観光課、台湾でのコンテンツは舛田准教授のアドバイスをもとに上述のような行程を計画した。また、最終日には石垣市企画政策課より紹介いただき、石垣市が2014年度から設置した台北駐在員の小笹俊太郎氏のもとを訪問することとなった。
- ・ 結果として、八重山地域内でのコンテンツはおおむねモニターツアーの企画にも合致する内容を多く発見することができた。特に、パイナップル伝来の歴史については、今も八重山観光の主要コンテンツの一つであるパイナップルが、戦前に台湾人実業家によって始められたというストーリーが残っており、それを伝承する子孫も健在であることから、八重山・台湾国境観光の有力なコンテンツの一つであると思料する。
- ・ しかし一方で、台湾では沖縄との船便が就航していることから文化的な繋がりが見られることを期待して訪問した基隆では、ほとんどそういったコンテンツを発見することができなかった。また、台湾独自の文化である原住民文化についても、基隆にある原住民文化会館日本から旅行者が訪れて満足できるようなレベルではなく、和平島の琉球漁民慰霊像も、最近建て

られたばかりのものであり、また周囲に見所が無いことからわざわざ訪問する価値があるとは思えず、台湾でのコンテンツ探しが次年度の課題として残された。

【2015 年度】

■ 共同研究の継続（省略）

■ 八重山・台湾研究の専門家の巻き込み

- ・ 前述の竹富町役場での打合せの際、企画財政課・小濱氏の紹介で八重山毎日新聞・松田良孝記者にお会いした。松田氏は八重山・台湾の関わりについて以前から研究しており、『八重山の台湾人』（2004 年／南山舎）、『石垣島で台湾を歩く』（共著、2012 年／沖縄タイムス社）、『与那国台湾往来記』（2013 年／南山舎）など関連する著作も豊富な第一人者である。松田氏にボーダーツーリズムの概要や意義を説明し、モニターツアー実施への協力を依頼したところ、快諾いただくことができた。松田氏からの提案で、モニターツアーにガイド役として同行いただくこととなった。

■ 国境観光に関する一般旅行者向けセミナーの開催

- ・ ANA セールス伊豆顧芳人顧問のご厚意により、ANA セールス主催「国境観光セミナー in 東京～日本初のボーダーツーリズムをつくる」を、東京・日本橋にある ANA ワンダーラウンジにおいて 6 月 29 日に開催した。報告者として、北海道大学・岩下教授と九経調・島田の2名が参加し、一般旅行者向けにボーダーツーリズムの内容を紹介した。小規模の会場で参加者も 15 名程度と少なかったものの、在京メディアに関心を持ってもらうことができ、旅行業界誌「トラベルジャーナル」や交通新聞、毎日新聞、朝日新聞の記者に参加いただいた。セミナー開催後にもメディアからの問い合わせがあり、ボーダーツーリズムについてレクチャーを行い、取材対象として高い関心を持っていただくことができた。

■ 国の巻き込み（省略）

■ 二度目の事前調査の実施

- ・ 3月に実施した事前調査では台湾でのコンテンツ探しが不十分であったため、台湾に絞って再び事前調査を行うこととした。メンバーは九経調・島田、竹富町・岸本氏、八重山毎日新聞・松田氏、石垣市台北駐在員・小笹氏の4名である。行程については次頁のとおりで、台

北・烏来・花蓮・蘇澳の4地域を訪問した。

<行程>

1日目 7/28(火)	11:25 12:10 13:00 14:30 15:00 16:00 17:00 17:30 18:40 19:00	桃園空港着(島田)(CI111 FUK 1010-1125 TPE) 桃園空港着(松田、岸本)(CI121 OKA 1145-1210 TPE) 桃園空港で集合(島田、松田、岸本) 桃園空港→(國光客運 1819 番バス)→國賓飯店(アンバサダーホテル) 綠峯大飯店集合、打ち合わせ(全員) 行天宮へ移動(路線バス)。【行天宮占い横丁】視察 MRT行天宮からMRT忠孝新生。【華山文化創意園區】視察 MRT善導寺からMRT龍山寺。【龍山寺】視察 MRT龍山寺からMRT西門。徒歩で【西門、台北郵便局、北門】視察 MRT北門からMRT南京復興。 夕食会場「衆流素食」。台北市龍江路102號、02-2516-5757 台北泊
2日目 29(水)	8:00 8:35 9:30 13:30 14:15 14:30 15:20 15:35 16:40 17:00	MRT雙連→MRT中正紀念堂→MRT新店(所要7分+乗り換え+17分=35分) 新店→(バス)→烏来(15-20分間隔、所要30分) 【烏来温泉、タイヤル族博物館、原住民料理(昼食)、烏来瀑布、トロッコ、ロープウエー】 烏来→(バス)→新店(所要30分) MRT新店→MRT古亭(所要15分) 徒歩で【青田街】散策 MRT東門→MRT台北(所要9分) 【台北駅北側の路地散策、當代美術館】 MRT中山→MRT台北→MRT市政府(所要2分+乗り換え+10分=20分) 【松山文創園區、台北101】(夕食未定) 台北泊
3日目 30(木)	9:30 10:55 11:30 14:00	MRT雙蓮→MRT中山→MRT南京復興→MRT松山機場 (所要1分+乗り換え+4分+乗り換え+5分=25分) 松山空港発(TNA09) 花蓮空港着 花蓮空港(タクシーチャーター)花蓮市内へ 【花蓮文化創意産業園區、花蓮鉄道文化園區、松園別館、花蓮港】 花蓮市内→【太魯閣】→花蓮市街 花蓮泊(夕食未定)
4日目 31(金)	7:30 8:30 12:15 13:05 14:20 17:25 17:30	蘇澳視察出発(花蓮0730-0844蘇澳新) 花蓮市内視察(30日に回り切れなかった場所) 花蓮発(自強219号) 羅東発(自強219号) 台北着、解散 台北→(バス)→桃園空港 桃園空港発(島田)(CI110 TPE 1725-2040 FUK) 桃園空港発(松田、岸本)(CI122 TPE 1730-1945 OKA)

- ・ 今回の調査では、前回訪問した基隆を避け、台北市内と近郊の烏来温泉での調査の後、鉄道で南下して花蓮(与那国町と姉妹都市)、太魯閣峡谷、蘇澳(石垣市と姉妹都市)を訪問した。結果的に、台北市内と烏来温泉のコンテンツは(国境観光に関係なく)純粋な観光旅行としても楽しめるものでありながら、八重山・台湾の繋がりや両地域の独自文化を紹介できるものであり、モニターツアーにおいても十分にコンテンツとして盛り込めるものであることが確認できた。また、太魯閣峡谷の自然はわざわざ訪れてでも見る価値のあるものであり、蘇澳の冷泉や南方澳漁港なども十分に観光ツアーとして楽しめるものであった。

■台湾観光協会の巻き込み

- ・ 7月初旬に台湾観光協会東京事務所・陳淑華副所長を訪問し、八重山・台湾ボーダーツーリズムの概要を説明するとともにモニターツアーへの協力を依頼した。同協会は台湾へのアウトバウンドを目的に活動する団体であり、台湾行き旅行商品の造成促進を図るため、台湾行き旅行商品を造成する旅行会社に対して助成金を支給するなどサポートを行っている。八重山・台湾ボーダーツーリズムが「日本人旅行者を八重山経由で台湾に送客」することも実現できるため、モニターツアーへの支援を求めたものである。
- ・ 陳副所長によると、助成金の支援対象は参加者が数百人規模の大規模な旅行商品であり、今回のモニターツアーでは対象にならないとのことであったが、新たな旅行者層を開拓するための取組を支援するものとして、例えばメディア招聘の費用を同協会が負担することなどは検討できるのではないかとご教示いただいた。また、モニターツアーへの協力機関としての名義提供、事務所内での募集チラシ配布などのご協力についても快諾いただいた。

■国内の旅行会社との連携

- ・ ANA セールス伊豆顧問から、ANA 専売であるビッグホリデー・並木取締役を紹介いただいた(並木氏には前述のセミナーにも参加いただいていた)。さっそく8月中旬にビッグホリデーを訪問した。並木取締役、川上朋来グループ長、小森信昭グループ長と面談し、モニターツアーの企画・販売・催行をお願いしたところ快諾いただくことができた。以降、モニターツアーの企画は川上、小森両氏をカウンターパートとして進めることとなった。

2. モニターツアーの企画・検討

■モニターツアーの企画、募集の実施

- ・ 以上のような取組をもとに、8月中旬よりビッグホリデーとともにモニターツアーの企画を開始した。企画内容の骨子は2回の事前調査の結果をもとに九経調が作成した上で、旅行商品として一般化させるための調整をビッグホリデーが行った。また、コンテンツの仕入れについて、通常は旅行会社が一括して行うものであるが、今回は様々な関係者の協力のもと個別に行った。
- ・ 具体的には、八重山での「台湾への移住経験者」や「八重山の伝統的な仏壇を持つ人」については八重山毎日新聞・松田記者が個別訪問し協力をとりつけた。祖納集落の懇親会については、竹富町企画財政課・岸本氏が祖納公民館長に直接連絡を取り協力をとりつけた。飛行機については、ANA は ANA セールス・伊豆顧問の口利きで、中華航空については中華航空沖縄支店の特別なサポート(安価な運賃の提供と無料席1席の提供)のもと手配を行った。八重山での宿泊については、西表島は竹富町・岸本氏のネットワークで、竹富町は九経調・島田のネットワークでそれぞれ宿泊施設と交渉し、特別な価格での協力をとりつけた。八重山での貸切バスについては、西表島は竹富町・岸本氏のネットワークで特別な価格での提供をとりつけ、石垣島は石垣市台北駐在・小笹氏の尽力で市所有のマイクロバスと運転手の無償提供をとりつけた。
- ・ これら企画内容をもとに募集チラシ(次頁)を作成し、東京都内(羽田空港周辺)の毎日新聞折り込みチラシとして1万枚を配布した。また、台湾観光協会東京事務所にもチラシを設置していただいたほか、JIBSN や国境地域研究センター(JCBS)のHP 上でも告知を行った。その他、関係者による SNS やメール等を活用した個別の情報発信も行った。



✈ 羽田空港発着

～両地域の文化の共通点を探す旅～

沖縄 八重山 台湾 モニターツアー 6日間

¥220,000

(2名1室利用の場合)

- ご旅行代金(大人おひとり様)※お子様も大人と同額になります。
※1名1室利用の場合は¥50,000割増となります。
- ご旅行代金に含まれるもの
旅行代金には往復航空機代(燃油サーチャージ・日本海外空港諸税金)をはじめとする各交通手段の費用、宿泊代(5泊)、行程に含まれるバス代、食事代(朝食5回、昼食6回、夕食4回)、行程内の体験プログラム費が含まれます。その他費用については現地にてお支払いください。

平成27年

- 旅行期間: 10月22日～10月27日
- 募集人数: 20名様(最少催行人員15名)

添乗員が同行しますので安心です!



国内旅行と海外旅行を同時に楽しむ新たな旅行を八重山・台湾両地域の関係者や航空会社のご協力のもと実現しました。

旅行中は、このツアーのために特別に協力いただいた**スペシャルガイド**により、八重山と台湾の共通点や違いを**魅力たっぷりに解説**いたします。

八重山でのガイド

松田 良孝氏(八重山毎日新聞 記者)
1969年2月、埼玉県大宮市(現・さいたま市北区)生まれ。北海道大学農学部卒。1991年4月に十勝毎日新聞社に入社し、政経部記者。1993年2月から八重山毎日新聞の編集部長記者、「八重山の台湾人」(2004年/南山会)で第25回沖縄タイムス出版文化賞(正賞)を受賞。「台湾探訪」(2010年/南山会)のもととなった八重山毎日新聞の連載記事「生誕一ひもじくて「八重山農民」の証言」では2010年の新聞労連第14回ジャーナリスト大賞を受賞。ほか「与那国台湾往來記」(2013年/南山会)、「石垣島で台湾を歩く」(共著、2012年/沖縄タイムス)など。

台湾でのガイド

小笹 俊太郎氏(石垣市役所 台北駐在員)
1975年10月、イタリア・ミラノ生まれ。1999年より石垣島に移住。ホテルのバーテンダーや土木設計業務を経た後、2005年石垣市役所に入庁。観光セクションでは、新石垣空港開港前後のPR全般に携わったほか、日本-台湾をはじめとする世界のデザイナーによる、デザイン力で石垣島の魅力を再発見するプロジェクト「USiO Design Project」を立ち上げた。2014年4月より沖縄産業振興公社台北事務所副所長、石垣市の海外駐在員として活躍している。

●企画・実施 ビッグホリデー(株) ●後援 チャイナエアライン、全日本空輸(株)
●協力 沖縄県竹富町、沖縄県石垣市、沖縄県産業振興公社台北事務所、台湾観光協会、八重山経済人会議、(株)八重山毎日新聞、ANAセールス(株)、境界地域研究ネットワークJAPAN、NPO法人国境地域研究センター、(公財)九州経済調査協会、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター

※本ツアーは、日本学術振興会の研究助成による実社会対応プログラム「国境観光：地域を創るボーダースタディーズ」の一環として実施するものです。

■モニターツアーの催行中止

- ・ 前述のような方法で参加者募集を行ったものの、残念ながら最少催行人員にあたる8名の参加者を集めることができなかった。
- ・ 最大の理由は、ひとえに募集期間の短さであると思料する。ツアー自体は10月下旬の実施であるが、海外旅行であるために販売は21日前までに締め切る必要がある。8月中旬より急ピッチで企画調整を進めたものの、旅行商品が完成し一般に募集を開始することができたのは9月初旬のことであった。募集締め切りまでに大きく情報発信できる機会は新聞折り込みの一度だけであり、一度のチャンスに賭けて折り込み配布を行ってみたものの、旅行会社への問い合わせは5件程度に過ぎなかったとのことである。
- ・ また、これまで JIBSN メンバーが取り組んできた対馬・釜山や稚内・サハリンとは異なり、首都圏の一般旅行者をメインターゲットにした取組であるため、メディアの有効活用が図れなかったことも大きい。福岡であれば西日本新聞、北海道であれば北海道新聞など、これまでの研究で培ったメディアとのネットワークが活用できたわけだが、在京メディアとのネットワークは強くなく、ボーダーツーリズム全般の取組について取り上げてくださることはあるものの、モニターツアーの募集を告知するというところまで協力を得ることは現時点では不可能であった。
- ・ 上記の経緯により、2015年度の八重山・台湾モニターツアー中止を決定した。

■境界研究者への報告

- ・ これまでの八重山・台湾ボーダーツーリズムの取組を、11月13日に北海道根室市で開催されたJIBSN根室セミナーで報告した。
- ・ 報告では、「南のボーダーツーリズム～八重山から台湾へ～」と題し、竹富町企画財政課・岸本氏とともにこれまでの取組の紹介と今後の取組予定について報告を行った。

3. 八重山・台湾国境観光の実現に向けた課題分析

結果的に、今年度実施を予定した八重山・台湾国境観光の実証実験は実施することができなかったが、今回の取組を通じて明らかになった課題は大きく以下の3点である。

(1) ツアー実施に向けたパートナーの確保

- ・ 今回の取組で最も苦勞したのは、旅行会社の協力体制を構築することであった。これまでのボーダーツーリズムの取組を通じて会社トップの共感を得られても、実際にツアーを造成する担当者レベルの理解が得られないと、トップダウンでは企画・実施まで結び付けることが容易ではないことが明らかになった。
- ・ 今回の取組で、ボーダーツーリズムの趣旨を理解いただいた上でツアーの実施に協力的な旅行会社(ビッグホリデー)を巻き込むことに成功した。当面は、幅広い旅行会社の理解を得ることよりも、ビッグホリデーのような協力的な旅行会社とのパートナーシップをさらに深めながら商品造成に取り組んでいくことが有効であろうと史料する。
- ・ また、航空会社が旅行会社に卸す団体商品向け航空券(IT 運賃)は、「往復での利用」「同一ツアー内での国際線と国内線の利用禁止」など条件が厳しく、正規のルートで造成すると非常に高価な旅行代金になってしまうことが明らかになった。ただし、上記は法規制ではなくあくまでもビジネス上のルールであり、航空会社の理解協力が得られれば課題解決は可能であるものと思料する。
- ・ 上記の2点から、いかに旅行会社や航空会社にとってもビジネスに繋がるようなボーダーツーリズムの取組を考えることができるかが重要な課題であると言える。

(2) 一般旅行者に向けた情報発信方法の検討

- ・ 今回の取組で商品造成を委託したビッグホリデーは、無店舗型の旅行会社であり自社の直接販売窓口を持たない。そのため、販売方法は他社による委託販売が主になっている。しかし、今回のモニターツアーのような単発商品は旅行会社の窓口にチラシを設置してもらうことが非常に難しいということが明らかになった。一般的に旅行会社の窓口は定番商品を並べるスペースが大部分を占め、次いで自社造成の単発商品を設置している。他社造成の単発商品となると、よほど商品内容に魅力が無ければ(販売する旅行会社に魅力と感じてもらうことができれば)設置してもらうことは難しいのである。
- ・ そのため、単発のモニターツアーを企画するだけでなく、定番商品の中でボーダーツーリズムのコンテンツを組み込んだ商品を造成できれば課題解決が可能である。具体的には、

ANA セールスが販売する「ANA ワンダーアース」のような高付加価値型商品に組み込めるだけのコンテンツが準備できれば多くの参加者を集めることが期待でき、またボーダーツーリズムのブランドイメージ向上にも資するものである。

- ・ もう一点、メディアとのネットワークについても触れておく必要がある。2013年に九経調が中心となって実施した日本初の対馬・釜山モニターツアーでは地元新聞社である西日本新聞が経済面にツアーの紹介記事を取り上げてくれたおかげで盛況であったが、東京・大阪などの大都市圏では境界地域研究者のネットワークが弱く、九州や北海道のように協力を得ることは困難であった。また、当初はメディアにモニターツアーの告知を協力要請することも考えていたが、ツアーの募集となると記事では扱いにくいと難色を示されることが多かった。
- ・ 上記の課題を一体的に解決する方法として、「ボーダーツーリズム推進協議会(仮称)」を組織することが有効であると思料する。具体的には、ボーダーツーリズムに関心を持つ旅行会社がそれぞれメンバーとして加入し、メンバーの旅行会社同士が共同でボーダーツーリズムに関連する商品の相互紹介ができないか。例えば、メンバーであるA社が造成したボーダーツーリズム関連旅行商品aを、同じくメンバーであるB社やC社でも商品aを委託販売したり、ボーダーツーリズムに関心のある一般旅行者を協議会で管理し、各社のボーダーツーリズム関連商品の情報をメールマガジンやSNS等を通じて発信したりするイメージである。また、こうした協議会を設置することで国や地方自治体等の補助金等の受け皿ができ、ボーダーツーリズムの普及に向けた行政のサポートを得ることも可能になるものと思料する。

(3) 地域内関係者への周知、協力体制の構築

- ・ 高付加価値な旅行商品を作るほど、これまで観光コンテンツでなかったものを観光商品に組み込むことが重要となってくる。今回のモニターツアーでいえば、台湾移住者へのインタビューや祖納集落での伝統芸能鑑賞がそれにあたる。また、当初はユタへのインタビューもコンテンツの一つとして検討していたが、関係者を通じて交渉した結果、「ユタは観光客相手に見せるものではない」と断られることとなった。このように、観光商品として扱われる事への拒否反応、既存の観光コンテンツとして受入体制が整っていないことから、旅行会社だけではボーダーツーリズムの商品を造成することは難しいという現状がある。
- ・ 上記を解消するためには、着地型商品の造成と同様、地域内の関係者を多く巻き込み、事前の根回しを進めておくことが肝要であると思料する。今回の取組でも、まさに地域内の関係者を多く巻き込んだうえで商品造成することを課題と捉えていたが、結果的にはさらなる地域の巻き込みが必要であることを痛感した次第である。

4. 今後の取組予定

(1) 八重山・台湾ボーダーツーリズムツアーの実施

- ・ 今回の取組で企画した内容をベースに、2016年6月上旬に再度ツアーを企画予定である。今年度と同様、旅行商品の企画・販売・実施をビッグホリデーが担当し、ツアーないでのガイド役を八重山毎日新聞・松田記者、石垣市台北駐在・小笹氏に依頼する予定である。
- ・ なお、今年度は一般旅行者をメインターゲットに募集を行ったものの、募集期間の短さだけでなく、まだボーダーツーリズムの知名度が低く、そもそも関心が集まりにくいのではないかと懸念する。ゆえに、一般旅行者をメインターゲットにした企画実施は時期尚早であると考え、次回は境界研究者やメディア関係者をメインターゲットに、プラスアルファで一般旅行者の参加も募る形を採ることを想定している。
- ・ また、今回募集したモニターツアーの内容について、一部の関係者から「強行日程すぎるのでもう少しゆったりと行程を組んだらよい」とのアドバイスをいただいたため、詰め込みすぎない行程で5日間 15万円を目安に商品開発を進めることを想定している。

(2) 「観光庁長官表彰」へのノミネートの働きかけ

- ・ 今年度の取組の中でネットワークを構築した九州運輸局・榎本観光部長より、ボーダーツーリズムの取組が「観光庁長官表彰」の受賞が狙えるのではないかとアドバイスをいただいた。同表彰は、「魅力ある観光地づくりやその魅力の発信、訪日外国人旅行客の誘致など、観光の振興、発展に貢献し、その業績が顕著な個人及び団体」に対して表彰するものであり、インバウンド関連の表彰に比べると、国内地域振興に関連する表彰は取組内容が地域レベルの小さなものが多く、ボーダーツーリズムのように全国の境界自治体で取り組んでいる事例であればノミネートされる可能性は高いとのこと。
- ・ ノミネートには各地の運輸局もしくはJNTOの推薦が必要であり、ボーダーツーリズムが推薦を受けるためには九州運輸局だけでなく北海道運輸局、内閣府沖縄総合事務局からも推薦を受ける必要がある。これら機関に対してもボーダーツーリズムに関する情報を発信するとともに、推薦を得るための働きかけを行っていくことが肝要である。

5. 講演・報告資料

■国境観光セミナーin東京「日本初の「ボーダーツーリズム」をつくる」(2015年6月29日開催)

国境観光セミナーin東京

日本初の 「ボーダーツーリズム」をつくる



2015年6月29日

境界地域研究ネットワークJAPAN

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター

公益財団法人九州経済調査協会

本日の報告者の自己紹介



岩下 明裕 (いわした あきひろ)

- 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授
- 境界地域研究ネットワークJAPAN 企画部会長
- 熊本県生まれ
- 境界研究で世界を飛び回る。年間渡航回数は約〇回



島田 龍 (しまだ りゅう)

- (公財)九州経済調査協会 調査研究部 研究主査
- 境界地域研究ネットワークJAPAN 企画部会所属
- 埼玉県生まれ
- 専門は観光振興。名前の“島”の字に負けぬようひたすら島に入り浸る

境界地域研究ネットワークJAPANの紹介

JIBSN 境界地域研究ネットワーク JAPAN JAPAN INTERNATIONAL BORDER STUDIES NETWORK

- ▶ 境界地域研究ネットワークJAPAN(略称：JIBSN) (代表幹事：根室市長 長谷川俊輔) は、境界地域の地方公共団体や境界地域研究に関わる研究・教育機関のメンバーが中心となって2011年11月に設立されました。歴代の代表幹事を与那国町長、対馬市長、根室市長が務め、北海道大学や九州大学、沖縄大学など境界地域を抱える地域の研究者らがメンバーとして名を連ねています。
- ▶ 2013年、日本学術振興会の実社会対応プログラムに「国境観光：地域を創るボーダースタディーズ」が採択され、研究代表者である北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・岩下明裕教授を中心に、境界地域の自治体、大学の境界研究者、地域シンクタンクなどの共同研究によってボーダーツーリズムの研究が行われています。
- ▶ また、本研究の特徴として、普及・定着を目指した取組の実施にあたっては、境界地域の観光事業者や地元経済界、旅行会社との連携を図りながら進めています。

2

JIBSN加盟機関・団体 (2015年4月1日現在)

No.	幹事	機関・団体名	代表者	住所
1	○	稚内市	工藤 広	北海道稚内市中央3-13-15
2	○	対馬市	財部 能成	長崎県対馬市厳原町国分1441
3	代表	根室市	長谷川 俊輔	北海道根室市常盤町2-27
4		公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター (HIECC)	佐藤 俊夫	北海道札幌市中央区北3西7道庁別館12F
5	○	小笠原村	森下 一男	東京都小笠原村父島字西町
6		東海大学海洋学部海洋文学科	山田 吉彦	静岡市清水区折戸3-20-1
7	○	五島市	野口 市太郎	長崎県五島市福江町1-1
8	○	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット	岩下 明裕	北海道札幌市北区北9西7
9	○	竹富町	川満 栄長	沖縄県石垣市美崎町11-1
10		中京大学社会科学研究所	榎山 幸夫	愛知県名古屋市中区八事本町101-2
11	○	沖縄大学地域研究所	田里 修	沖縄県那覇市国場555
12	○	九州大学韓国研究センター	中野 等	福岡市東区箱崎6-10-1
13	○	与那国町	外間 守吉	沖縄県与那国町字与那国129
14		公益財団法人環日本海経済研究所 (ERINA)	西村 可明	新潟市中央区万代島5-1 万代島ビル13F
15		隠岐の島町	松田 和久	島根県隠岐郡隠岐の島町城北町1番地
16		特定非営利活動法人アジアクラブ	緒方 修	沖縄県那覇市真地330-1
17	副代表	特定非営利活動法人国境地域研究センター	数野 祐三 (副代表代行 古川浩司)	名古屋市中区上前津2丁目3番2号 第一木村ビル302号
特別会員		日本島嶼学会	長嶋 俊介	(事務局) 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
特別会員		公益財団法人九州経済調査協会	森本 廣	福岡市中央区渡辺通2-1-82 電気ビル共創館5F

3

国境・境界の研究というと…



4

ボーダーツーリズム（国境観光）とは？

【ボーダーツーリズム】

- 国境・境界観光
- 国境をはさむ境界地域を「交流の最前線」と位置付け、観光を通じて関心を高めようとする試み
- 鳥根県・竹島など領土問題をめぐり隣国との対立が続く中、九州大や北海道大の研究者がボーダーツーリズムを提唱している（現代用語の基礎知識2015「現代用語Today」）

- まだ一般的には知られていない言葉ですが、今年の現代用語の候補に採集されるなど、取組を通じて名前が広まりつつあります。
- 今回のセミナーは、私たちが提唱する新しい旅行の楽しみ方「ボーダーツーリズム」について知っていただくことを目的にしています。

5

ボーダーツーリズムの目的

▶ ボーダーツーリズムを定着させることで、境界地域に多くの旅行者を送り、**地域経済の活性化**に繋がりたい！

新たな旅行スタイル「ボーダーツーリズム」の普及・定着

新たな旅行魅力を目当てに境界地域を訪れる旅行者が増加

観光業を中心に境界地域の経済が賑わう

国にとっても重要な境界地域の維持・発展にも繋がる

6

ボーダーツーリズムの3つのかたち

境界地域を…



7

境界地域を 見る

- ▶ 境界地域を訪れることで、境界地域ならではの体験をする。
- ▶ 境界地域ならではの施設を見る（例：国境線を見る）、境界地域ならではの現象を体験する（例：隣国の電波を受信する、隣国の人が行き交う様子を見物する）



8

境界地域を 渡る

- ▶ 境界地域を渡り、両地域を同一行程で旅行する。
- ▶ 世界的には、純粋な観光としてだけではなく、買い物や医療サービスの受診など、観光以外の目的で渡ることも多い。



9

境界地域を 併せ見る

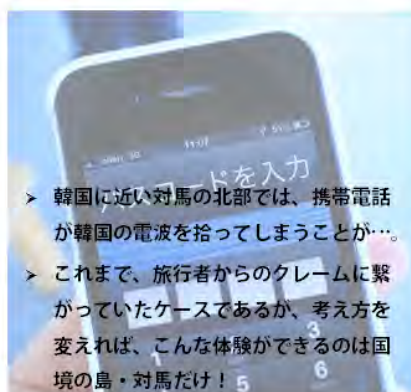
- ▶ 境界に接する両地域を併せて見ることが観光魅力となることもある。
- ▶ 例えば、八重山ではユタ文化が今も根強く残り「医者半分ユタ半分」と言われるほど頼られている。一方、台湾でも占いはポピュラーな文化として人気である。これを両地域で体験することは新たな観光魅力となるのではないか？



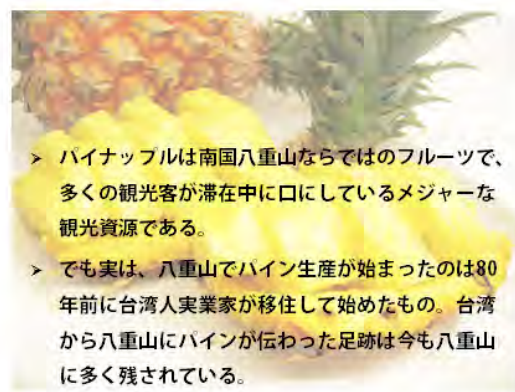
10

「国境」という新たな観光魅力

- ▶ 既存の資源に「国境」という切り口を付け加えることで、その資源に新たな魅力を与えることができる。
- ▶ 何の変哲もないようなもの、むしろ迷惑と思われていたものでも、国境ならではの体験と思えば途端に貴重な資源に（なることも!?)



- ▶ 韓国に近い対馬の北部では、携帯電話が韓国の電波を拾ってしまうことが…
- ▶ これまで、旅行者からのクレームに繋がっていたケースであるが、考え方を変えれば、こんな体験ができるのは国境の島・対馬だけ！ 5



- ▶ パイナップルは南国八重山ならではのフルーツで、多くの観光客が滞在中に口にしているメジャーな観光資源である。
- ▶ でも実は、八重山でハイン生産が始まったのは80年前に台湾人実業家が移住して始めたもの。台湾から八重山にハインが伝わった足跡は今も八重山に多く残されている。

11

境界地域を「行き止まり」から「ゲートウェイ」に！

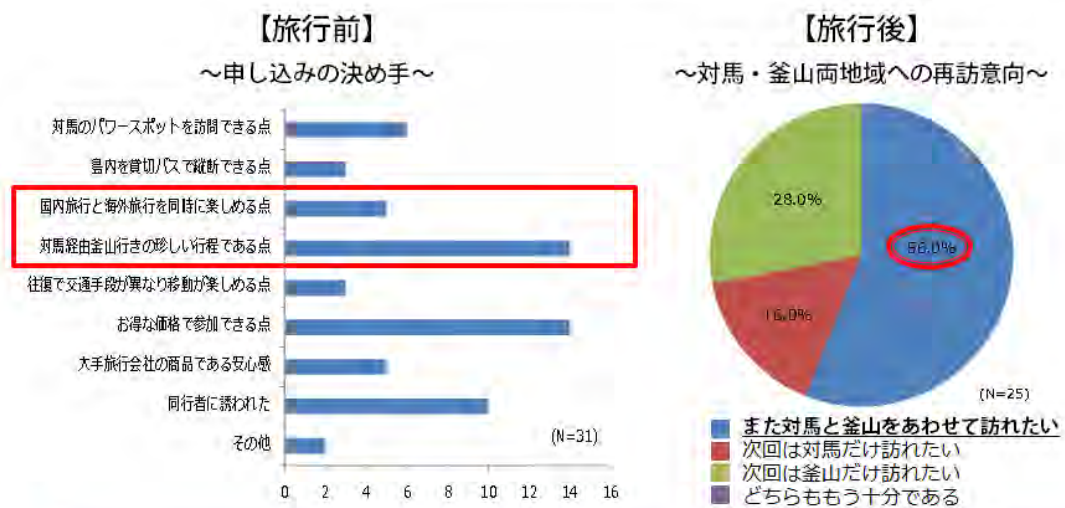
▶ 日本地図で見れば境界地域は「行き止まり」。
でも、世界地図で見れば隣国との「ゲートウェイ」なのである！



12

ボーダーツーリズム実現の可能性

コンセプトは良いとして、実際に一般的な旅行形態として受け入れられるのか？



▶ 国内・海外同時訪問の珍しさが大きな誘客要因となったが、この行程は珍しいだけでなく、再訪時にも国内外をあわせて訪問したいという声が半数を超えた。
⇒ 珍しいだけの旅行形態ではなく、定番旅行商品として十分に成立する可能性

13

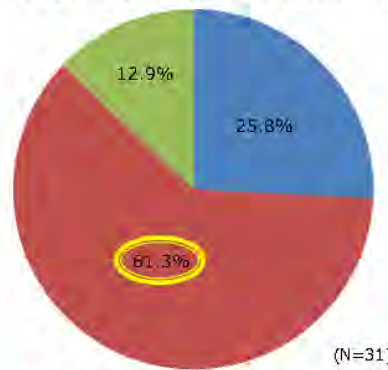
ボーダーツーリズム実現の可能性 (さらに…)

➤ 参加者の半数以上は、これまで国内と海外を一度に訪れる旅行について考えたことがなかったが、今回の募集を契機に興味を持つようになった人たちであった。

⇒ コンセプトを広めていくことで関心を持ってくれる潜在的ニーズが十分にある可能性

【旅行前】

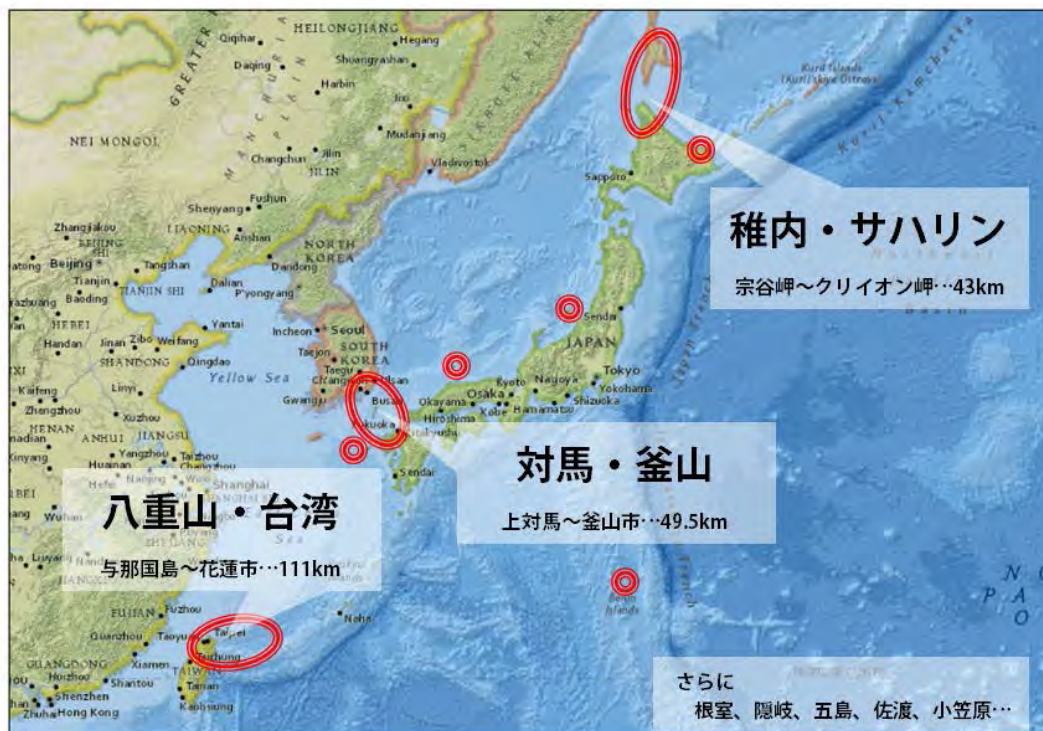
～国内外をあわせて訪問するような旅行への関心～



- 前からこういう旅行形態があればよいと思っていた
- これまで考えたことは無かったが、知ってみると興味深い内容だと思った
- 国内外を一度に楽しめるというコンセプトにはあまり関心がない

14

日本におけるボーダーツーリズムの舞台



15

対馬でボーダーツーリズムが実現すると…

現状

- ▶ 対馬は年間19万人もの韓国人観光客が訪れている一方、日本人観光客が極端に少なく、特に団体旅行の目的地となることが非常に少ない（対馬が誇る歴史・自然を好む観光客は見られるが、彼らは個人客である）。
- ▶ その結果、対馬における観光は宿泊・飲食・土産・交通などあらゆる面で産業として成り立っていない。



- ▶ ボーダーツーリズムを定着させることで日本人団体旅行の目的地となることで、韓国人観光客が極端に多い対馬のアンバランスを改善するとともに、ボリュームの多い団体客の受け入れに繋げることで島内の観光産業の持続的発展に結び付けたい。

日本人観光客の増加によるアンバランスの解消

島内観光産業の成長による持続的観光の実現

16

稚内でボーダーツーリズムが実現すると…

現状

- ▶ 日本最北端の地として有名な稚内であるが、これといった観光資源に恵まれず、道外からの入込客数は年間35万人程度（北海道全体の1%未満）にとどまっている。
- ▶ 稚内～コルサコフ間には1999年から民間企業による定期フェリーが運航しているが、貨物量や乗客が少ないため、民間企業は年内での撤退を表明した。稚内とサハリンを結ぶ唯一の定期航路であり、地元では航路維持に向けて協議が進められている。



- ▶ ボーダーツーリズムを定着させることで、道外からの誘客が見込める新たな観光魅力を創出し、観光客数の増加に繋げるとともに、国境観光により稚内・サハリン航路の利用が増加することで同航路の維持・安定化に結び付けたい。

新たな観光魅力の創出による観光客数の増加

航路利用者の増加による航路の維持・安定化

17

八重山でボーダーツーリズムが実現すると…

現状

- ▶ 日本有数の南国リゾート・八重山地方には夏場を中心に多くの観光客を誘客している。一方、夏場の観光魅力が突出しており、オン/オフシーズンのギャップが大きい。
- ▶ 現在、中華航空が石垣～台北便を週2往復運航しているが、夏季限定の運航に留まっている。その理由は、利用の大部分が台湾から八重山への送客に集中しており、そのため台湾からの観光客が少なくなるオフシーズンは乗客が見込めないためである。



- ▶ ボーダーツーリズムを定着させることで、現在はほとんど利用のない石垣～台北便の日本人利用者を新たに生み出し、同航路の通年運航の実現に結び付けたい。
- ▶ また、オフシーズンにも活用できる新たな観光魅力を創出することで、年間を通じて魅力あふれる八重山観光を創り出したい。

石垣・八重山直行便の通年運航化

年間通じて魅力あふれる八重山観光の実現

18

対馬を舞台にした日本初のボーダーツーリズム企画

【課題】

- ▶ 対馬の観光魅力と釜山の観光魅力を組み合わせ、いかに一つの旅行商品として成立させることができるか？

対馬の観光魅力



釜山の観光魅力



単純に両地域の売りを組み合わせるだけでは一つの旅行商品にならない
(自然・歴史を好んで旅行する人が、同じ旅行で美容や韓流を体験したいか?)

19

そこで考え付いたコンセプトが・・・

対馬の観光魅力



釜山の観光魅力



「対馬で**パワースポット**をめぐり、
釜山の**美容・グルメ**で**女子力**を発揮！」

ターゲット

- 福岡近郊在住の女性（年代は問わない）
- 例：母娘の2人旅、女性グループ旅行、女性1人旅など

20

最初のモニターツアー

- 2013年の年末に実施
- 福岡在住の一般旅行者が対象
- JR九州旅行が企画・販売
- 【福岡ー（飛行機）ー対馬ー（高速船）ー釜山ー（高速船）ー福岡】という一筆書きの行程
- 福岡発釜山行の旅行が1万円台で販売されていることを考慮し、なるべく低価格で収まるよう行程を調整
- 対馬を日帰りし、釜山に1泊する行程（価格面を考慮すると、島内で団体客が満足して宿泊できる施設が見当たらない）

21



1日目(3/14・土)

- ① 対馬空港着 (8:25着)
- ② 浅茅湾クルーズ (9:00-10:30)
- ③ 万松院、歴史民俗資料館 (11:00-12:00)

(昼食)

- ④ 和多都美神社、烏帽子岳展望台 (14:00-15:00)
- ⑤ 対馬パール・真珠アクセサリー作り (16:30-18:00)

(夕食・宿泊)



2日目午前(3/15・日)

- ① 殿崎・日露戦争慰霊碑 (8:30-9:00)
- ② 韓国展望所 (9:00-9:30)
- ③ 対馬野生生物保護センター (ヤマネコセンター) (10:00-10:30)

(昼食)

- ④ 比田勝港出国 (13:00)
- ⑤ 対馬パール・真珠アクセサリー作り (16:30-18:00)

(夕食・宿泊)



2日目午後(3/15・日)

- ① 釜山港入国 (14:00)
- ② 釜山近代歴史館 (14:30-15:30)
- ③ 朝鮮通信使歴史館 (16:00-16:30)
- ④ 釜山博物館 (16:30-17:30)
(夕食・宿泊)

3日目(3/16・月)

- ⑤ 草梁倭館跡、龍頭山公園、釜山タワー (9:00-10:00)
(ロッテ免税店@西面)
- ⑥ 国際市場、チャガルチ市場 (11:30-12:30)
(昼食、買い物)
- ⑦ 釜山港出国 (15:30)

参加者の声

朝鮮通信使について日韓両国の視点で見ることができ、興味深かった。

朝鮮通信使の博物館は初めてで、
韓国の人たちがどう捉えてどう伝えようとしているのを感じられて興味深かった。

一般的な旅行商品にはなかなかないツアーでとても興味深いものだった。
同じ歴史を語るにも、対馬と釜山で全く違う見方をされているのが印象的だった。

対馬の歴史を理解して釜山に渡るのはとても良かった。
両方の添乗員さんがよく勉強され、また慎重にお話しをされていたのが心に残る。

通常、辺境と考えられている国境の島や街に焦点を合わせた旅の企画に感心した。

短時間で対馬・釜山間の国境周辺を盛りだくさんで学べ、非常に面白い企画だった。

対馬の景色、歴史、食事も満足し、韓国と日本(九州)の近さを改めて実感した。

国と国の間に「境」があるということはわかっていたが、この旅行で再確認できた。

国境という観点が欠落していた点に気づかされた。

日本国内と海外旅行と組み合わせるといのはユニークだと思う。

BORDER TOURISM 団企企画 **2015 サハリン国境観光モニターツアー5日間**

稚内から一番近いヨーロッパ 羽田・稚内発
 査証免除で行く 72時間以内滞在ロシア査証免除制度利用 **添乗員付**

◆ご旅行日程◆
6/15(月)~6/19(金)

●ご旅行代金(稚内発着:お一人様) (2名1組利用の場合)
127,400円 乗組員人数 30名
 1人参加追加料金(4泊5日) 22,000円 【最少参加人数:15名】

●利用予定ホテル(稚内・グランドホテル)
 ●利用予定ホテル(サハリン・サッポロ・ホテル)
 ●利用予定ホテル(サハリン・サッポロ・ホテル)
 ●利用予定ホテル(サハリン・サッポロ・ホテル)

●お申し込み締切日:ご出発日の21日前 数量限りになり次第受付を締めます。

日	内泊・曜日	都市	発着時間	交通機関	行	備考
6/15	(月)	稚内	13:00 00分	専用車	稚内(空港) 稚内(港)	稚内(空港) 稚内(港)にて乗車。稚内(港)にて乗車。稚内(港)にて乗車。稚内(港)にて乗車。
6/16	(火)	稚内	07:30 00分 15:30 00分 18:00 00分	専用車	稚内(港) 稚内(港)	稚内(港)にて乗車。稚内(港)にて乗車。稚内(港)にて乗車。稚内(港)にて乗車。
6/17	(水)	ユジノサハリンスク	09:00 00分 18:00 00分	専用車	ユジノサハリンスク	ユジノサハリンスクにて乗車。ユジノサハリンスクにて乗車。ユジノサハリンスクにて乗車。ユジノサハリンスクにて乗車。
6/18	(木)	ユジノサハリンスク	18:00 00分	専用車	ユジノサハリンスク	ユジノサハリンスクにて乗車。ユジノサハリンスクにて乗車。ユジノサハリンスクにて乗車。ユジノサハリンスクにて乗車。
6/19	(金)	ユジノサハリンスク	07:30 00分 10:00 00分 14:30 00分	専用車	ユジノサハリンスク	ユジノサハリンスクにて乗車。ユジノサハリンスクにて乗車。ユジノサハリンスクにて乗車。ユジノサハリンスクにて乗車。

ANAセールス株式会社
 〒103-0027 東京都中央区日本橋2-14-1
 TEL 0162-23-3820 FAX 0162-22-4252

稚内・サハリン モニターツアー第一弾

- 2015年の6月に実施
- ANAセールスが企画・販売
- 稚内～サハリン間は往復ともフェリーを利用
- サハリン訪問自体に観光魅力があるため、全国から参加者を募集し、現地集合の形を採用
- 限定30名で募集を開始し、締切日前に定員に達する人気

実施予定のモニターツアー

稚内・サハリンボーダーツーリズム ～サハリン国境紀行 北緯50度線へ～

➢ 9月10日(金)～15日(月)の5泊6日間で実施予定

	日時	時間	都市	プログラム
1	9月10日(木)	07:30 09:00	稚内発	稚内集合 ハートランドフェリーにてサハリンへ 宗谷海峡で日露の国境超え(「国境通過証明書」が渡されます)
		15:30 夕方	コルサコフ(大泊)着 コルサコフ(大泊)発 ユジノサハリンスク(豊原)着	到着後、市内ミニ観光:大泊王子製紙工場跡、旧拓殖銀行跡(外観)を見学 専用バスにて 到着後、ホテルにて夕食【ユジノサハリンスク泊:ホテル サハリンサッポロ】
2	9月11日(金)	午前		ホテルにて朝食 ユジノサハリンスク市内視察/旧日本史跡を巡ります: 郷土史博物館(樺太庁博物館/入場)、旧拓殖銀行、軍事裁判所(旧樺太司令官邸)、樺太神社跡、山の空気展望台、日本人墓地(献花)
		午後 18:00	ユジノサハリンスク(豊原)発	市内レストランにて昼食 日本センター訪問 専用バスにてポロナイスク(敷香)へ 夕食はお弁当 【ポロナイスク泊:ホテル セーベル】

実施予定のモニターツアー

稚内・サハリンボーダーツーリズム ～サハリン国境紀行 北緯50度線へ～

➤ 9月10日(金)～15日(月)の5泊6日間で実施予定

3	9月12日 (土)	01:00	ポロナイスク(敷香)着	専用バスにてホテルへ
		午前	ポロナイスク(敷香)発 スミルヌイフ(気屯) ポベージノ(古屯)	専用バスにて北緯50度線旧国境地域へ出発 スミルヌイフ(気屯):日ソ両軍の激しい戦闘の地、郊外にトーチカなど ポベージノ(古屯):同上、旧日本軍トーチカ、ソ連軍戦勝記念碑等 スミルヌイフ戦没者慰霊碑にて献花・焼香
			ユジノハンダサ(南半田沢)	南半田沢駅(国境から4キロの所)、北緯50度国境石碑等 岡田嘉子が杉本良吉と共に日ソの国境を越えて逃避行したのは1938年(昭和13年)1月3日午後3時半のことでした 昼食:お弁当または市内のレストランにて
		昼 午後	ユジノハンダサ(南半田沢)発 ポロナイスク(敷香)着	専用バスにて 到着後、市内視察/旧日本史跡巡り:旧王子製紙敷香工場跡、旧駅跡他 元横綱大鵬親方の記念碑、ポロナイスク郷土史博物館
23:33	ポロナイスク(敷香)発	市内レストランにて夕食 夜行寝台列車 604号にて	【車中泊】	

30

実施予定のモニターツアー

稚内・サハリンボーダーツーリズム ～サハリン国境紀行 北緯50度線へ～

➤ 9月10日(金)～15日(月)の5泊6日間で実施予定

4	9月13日 (日)	06:17	ユジノサハリンスク(豊原)着	専用バスにてホテルへ 小休止(朝食、トイレ)	
		09:00	ユジノサハリンスク(豊原)発	専用バスにて 途中、終戦後も日ソ間で激戦のあった熊笹峠へ。「戦勝記念碑」見学	
		11:00 昼 午後	ホルムスク(真岡)着	市内レストランにて昼食 ホルムスク(真岡)市内視察/旧日本史跡巡り:旧王子製紙工場、旧真岡郵便局跡、鎮魂の碑他	
				市内レストランにて夕食	【ホルムスク泊:ホテル チャイカ】
5	9月14日 (月)	午前	ホルムスク(真岡)発 シネゴルスク(川上)着	ホテルにて朝食 専用バスにて 旧川上炭鉱、博物館見学	
		午後	シネゴルスク(川上)発 ユジノサハリンスク(豊原)着	昼食:お弁当 専用バスにて ショッピング等 市内レストランにて夕食 【ユジノサハリンスク泊:ホテル サハリンサッポロ】	
6	9月15日 (火)	午前 10:00 13:00 16:00	ユジノサハリンスク(豊原)発 東京(成田)着	ホテルにて朝食 フリー 専用バスにて空港へ 空路、オーロラ航空 HZ-9233 便にて帰国の途に	

31

実施予定のモニターツアー

道東ボーダーツーリズム ～北海道の海の境界を味わう4日間～

➢ 10月2日(金)～5日(月)の3泊4日間で実施予定

【行程表】

行 程 表	
1 日 目	中標津空港(9:00頃集合)＝＜専用バスにて＞＝納沙布岬＝雷舞車石など史跡めぐり＝歴史と自然の資料館＝ケーブル通信庫＝トーヨーグランドホテル(泊)(18:00頃) ※各自にて中標津空港へご集合ください。 朝 × 昼 ○ 夕 ○ 宿泊地:中標津
2 日 目	ホテル(08:00頃)＝標津で国後島見学＝北方館＝小清水原生花園＝北方民族博物館＝網走刑務所＝網走温泉(泊)(18:00頃) 朝 ○ 昼 ○ 夕 ○ 宿泊地:網走温泉
3 日 目	ホテル(08:00頃)＝紋別流水博物館＝インディギルガ号の碑＝宗谷岬＝太陽光・風力発電見学＝稚内(泊)(18:00頃) 朝 ○ 昼 ○ 夕 ○ 宿泊地:稚内
4 日 目	ホテル(08:00頃)＝百年記念塔・記念館＝ノシャップ岬＝稚内市内商店街自由散策＝稚内空港(12:00着)※稚内空港着後解散となります。 朝 ○ 昼 × 夕 × ※企画内容が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

32

実施予定のモニターツアー

八重山・台湾ボーダーツーリズム ～両地域の文化の共通点を探す旅～

➢ 10月下旬に実施予定(八重山2泊+台湾2泊程度を予定)



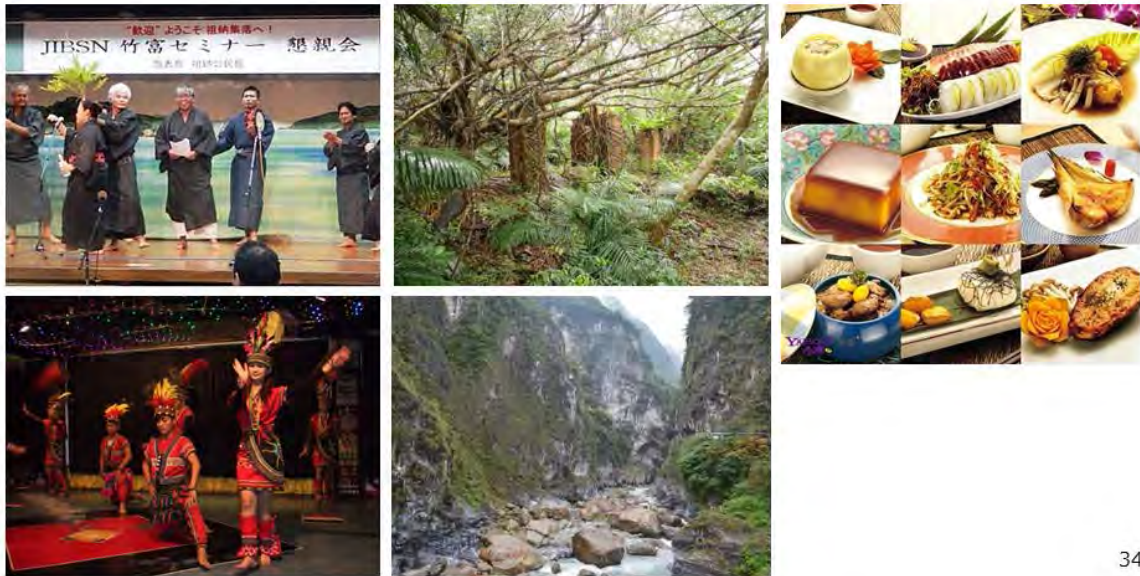
- 東京－(ANA)－石垣－(中華航空)－台北－(ANA)－東京
いずれも片道利用だが、航空会社の協力のもと、お得な価格での座席提供を受けられる予定
- 『石垣島で台湾を歩く』の共著者である八重山毎日新聞・松田記者がガイド役として同行予定
- 竹富町の協力のもと、宿泊費と船舶代については町の半額負担が受けられる予定
- 総額15～20万円程度

33

実施予定のモニターツアー

八重山・台湾ボーダーツーリズム ～両地域の文化の共通点を探す旅～

▶ 10月下旬に実施予定（八重山2泊+台湾2泊程度を予定）



34

ボーダーツーリズム実現に向けた取組（始動から昨年まで）

時期	地域	取組内容
2013年	4月 対馬・釜山	JR九州高速船、ANAセールス福岡支店との協議（北大・岩下、九経調・島田）
	8月 対馬・釜山	地元自治体、観光協会との協議（九経調・島田）
	4月 全般	「国境観光：地域を創るボーターズアイズ」が、(独)日本学術振興会「課題設定による先導的人文・社会科学的研究推進事業（実社会プログラム）」に採択（北大・岩下）
	9月 対馬・釜山	韓国人観光客の対馬旅行の実態調査の実施（九州国際大・木村、北大・花松）
	10月 対馬・釜山	JR九州旅行との協議（北大・岩下、九経調・島田）
	〃 対馬・釜山	JIBSN五島セミナーにて、「対馬・釜山における国境観光の集客可能性調査」を報告（九経調・島田）
	12月 対馬・釜山	JR九州旅行主催、対馬・釜山モニターツアーの実施（九経調・島田）
2014年	2月 対馬・釜山	北海道大学GCOE「境界研究の拠点形成」ファイナルシンポジウムにて、「国境の島・対馬の国境観光をつくる」を報告（九経調・島田、北大・花松、九州国際大・木村）
	〃 対馬・釜山	日本観光ホスピタリティ研究会プレカンファレンスにて、「対馬・釜山における国境観光の可能性」を報告（九経調・島田）
	6月 八重山・台湾	地元自治体、経済界との協議（九経調・島田、竹富町・小濱）
	7月 対馬・釜山	ブックレット『国境の島・対馬の観光を創る』を刊行（北大・岩下、九大・花松、九州国際大・木村、九経調・島田）
	8月 全般	北海道大学総合博物館にて「国境観光」特別展示を開催（～2015.3）
	〃 八重山・台湾	中華航空沖縄支店との協議（九経調・島田、八重山経済人会議・大浜）
	7月 対馬・釜山	シンポジウム「日本初の国境観光を創る-対馬の挑戦」を開催（九経調・島田）
	10月 稚内・サハリン	ボーダーツーリズム in Hokkaido「日本初の国境観光を創る-北海道・稚内の挑戦」を開催（HIECC・高田）
	〃 対馬・釜山	「対馬における韓国人観光客受け入れと国境観光の可能性」が、九経調「地域研究助成事業」に採択（九大・花松）
	11月 全般	ボーダーツーリズムのロゴを作成
	〃 全般	JIBSN竹富セミナーにて、「日本の国境観光を拓く」を報告（九経調・島田、八重山経済人会議・大浜、HIECC・高田）
	12月 八重山・台湾	ANAセールスとの協議（九経調・島田）

35

ボーダーツーリズム実現に向けた取組（今年、そして今後）

時期	地域	取組内容
2015年	八重山・台湾	事前調査の実施（九経調・島田、九大・花松、日本文理大・舩田）
	全般	九州大学アジア太平洋未来研究センター設立シンポジウムにて、「ボーダーツーリズムを創る」を報告（九大・花松、北大・ゴルノフ）
	対馬・釜山	近畿日本ツーリスト主催、対馬・釜山モニターツアー第2弾の実施（九大・花松）
	対馬・釜山	九経調地域研究助成事業・福岡大学寄付研究連携新産業イノベーション研究講座研究発表会にて、「対馬における韓国人観光客受け入れと国境観光の可能性」を報告（九大・花松）
	5月 全般	九州大学アジア太平洋未来研究センター（CAFS）主催「ボーダースタディーズ・アジア太平洋セミナー ～ボーダーツーリズム（国境観光）九州・沖縄と北海道の取り組み～」にて、これまでの活動内容を報告（北大・岩下、九大・花松、九経調・島田）
	6月 稚内・サハリン	ANAセールス主催、稚内・サハリンモニターツアーの実施（北大・岩下、HIECC・高田）
	全般	ANAセールス主催、一般旅行者向けの初のセミナー「国境観光セミナーin東京～日本初のボーダーツーリズムをつくる～」を開催（北大・岩下、九経調・島田）
7月	八重山・台湾	地元新聞社や沖縄県を巻き込み、台湾での現地調査を実施（九経調・島田、竹富町・岸本、石垣市・小笹）
8月	対馬・釜山	近畿日本ツーリスト主催、対馬・釜山モニターツアー第3弾の実施（九大・花松）
9月	稚内・サハリン	エムオーツーリスト主催、稚内・サハリンモニターツアー第2弾の実施（北大・岩下）
	対馬・釜山	対馬・釜山モニターツアー第4弾の実施（北大・岩下）
10月	八重山・台湾	ANAセールス主催、八重山・台湾モニターツアーの実施（九経調・島田）
	道東・道北	太平洋、オホーツク、そして日本海、北海道ボーダーツアーの実施（北大・岩下）

▶ 国境を切り口にした新たな旅行「ボーダーツーリズム」は、旅行者の皆さまに新たな旅行の楽しみ方を提供するだけでなく、境界地域を訪れる旅行者が増えることで境界地域の活性化にも繋がるものです。モニターツアーに参加いただき、私たちとともに日本初のボーダーツーリズムを創っていきませんか！？

36

ご清聴

ありがとうございました！

■JIBSN 根室セミナー「南のボーダーツーリズム～八重山から台湾へ～」
(2016年2月13日開催)

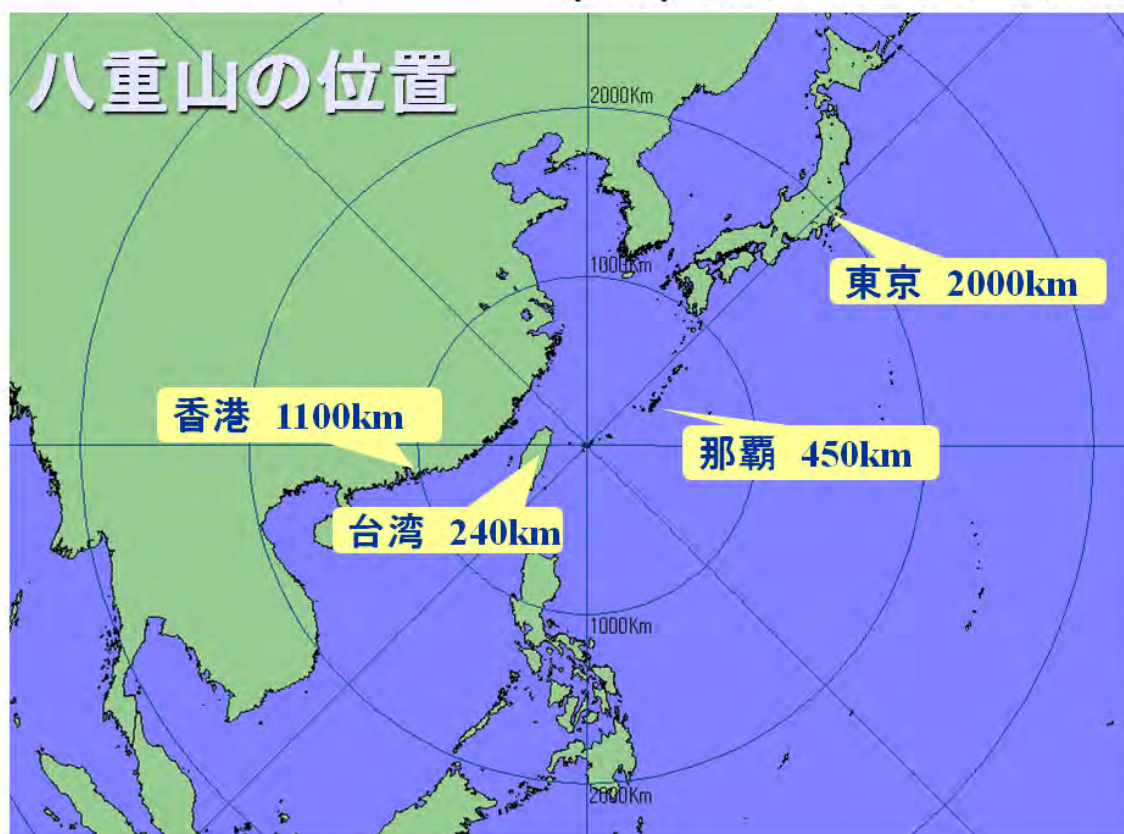
JIBSN根室セミナー

南のボーダーツーリズム ～八重山から台湾へ～



2016年2月13日

竹富町企画財政課 岸本 将希
(公財)九州経済調査協会 島田 龍



八重山と台湾



2

台湾からの観光客



79, 295人(台湾)

80, 785人(総数)

石垣港入国
外国人観光客数
(入国管理
統計年報H26)

基隆（キール）をベース港とした
クルーズ船での入国→石垣島
週2～3回のペースで寄港

3

八重山でボーダーツーリズムが実現すると…

現状

- ▶ 日本有数の南国リゾート・八重山地方には夏場を中心に多くの観光客を誘客している。一方、夏場の観光魅力が突出しており、オン/オフシーズンのギャップが大きい。
- ▶ 現在、中華航空が石垣～台北便を週2往復運航しているが、夏季限定の運航に留まっている。その理由は、利用の大部分が台湾から八重山への送客に集中しており、そのため台湾からの観光客が少なくなるオフシーズンは乗客が見込めないためである。

- ▶ ボーダーツーリズムを定着させることで、現在はほとんど利用のない石垣～台北便の日本人利用者を新たに生み出し、同航路の通年運航の実現に結び付けたい。
- ▶ また、オフシーズンにも活用できる新たな観光魅力を創出することで、年間を通じて魅力あふれる八重山観光を創り出したい。

石垣・八重山直行便の通年運航化

年間通じて魅力あふれる八重山観光の実現

4

これまでの取組

時期	内容	
2014年	2月	GCOEファイナルプログラムで対馬釜山を発表し、竹富町に提案
	4月	竹富町が共同研究を予算化（+北大）
	5月	ANAセールスへの訪問、モニターツアー協力をお願い
	6月	竹富町と九経調との初打合せ、八重山経済人会議の紹介
	8月	八重山経済人会議・大浜代表幹事の紹介で中華航空沖縄支店を訪問、モニターツアー時の片道運賃融通、座席確保の要請 →シーズン最終便を片道利用して実施することを確認
	9月	中華航空沖縄支店から連絡あり、冬期運航を計画しているので冬期運航中の実施はどうかと提案があり了承
	12月	冬期運航が予想以上に厳しかったため冬期運航を取り止め →14年度中のツアー実施を見送り
2015年	3月	九経調・島田、九大・花松、日本文理大・舩田（元与那国町）の3名で国境観光実現に向けた事前調査を実施
	4月	竹富町が共同研究を引き続き予算化（+北大）
	5月	竹富町、モニターツアーでの島内宿泊に地方創生の補助活用を検討
	6月	ANAワンダーラウンジにおいて国境観光に関する一般旅行者向けのセミナーを開催 ANAセールス・伊豆顧問よりビッグホリデーを紹介
	7月	九経調・島田、竹富町・岸本、石垣市・小笹（台北駐在）、八重山毎日新聞・松田記者の4名で国境観光実現に向けた事前調査を実施
	8月	ビッグホリデーを訪問、モニターツアー協力をお願い 台湾観光協会東京事務所を訪問、モニターツアー協力をお願い
	8～9月	モニターツアーの企画、募集 →最少催行人員に達しなかったため催行中止

5

モニターツアーの企画・募集

沖縄八重山・台湾モニターツアー6日間

¥220,000

10月22日～10月27日

20名様(最少催行人員16名)

国内旅行と海外旅行を同時に楽しむ新たな旅行スタイル!

沖縄八重山・台湾 国境観光 モニター6日間

日次	行程	宿泊
10月22日(木)	07:50 前田空港発 AMJARR 石垣島(11:05着) 台湾クルーズの見学 15:30 石垣島 竹富島(15:45着) 水牛車観光	ホテル・竹富島内宿泊設備
10月23日(金)	10:45 竹富島 石垣島観光 西表島(11:40着) クワラ灰坑跡 祖納集落	ホテル(西表島ジャングルホテル(バイマヤ)
10月24日(土)	08:45 ホテル・大原 石垣島(09:30着) 石垣島 名産集落 14:30 台北 台北南環空港(14:25着) 龍山寺・地下街古い広場	台北南環空港(14:25着) 龍山寺・地下街古い広場

ビッグホリデー株式会社
TEL 03-3818-5449
mail: bhair@big5.co.jp

6

モニターツアーの企画・募集

日次	行程	宿泊
10月22日(木)	07:50 前田空港発 AMJARR 石垣島(11:05着) 台湾クルーズの見学 15:30 石垣島 竹富島(15:45着) 水牛車観光	ホテル・竹富島内宿泊設備
10月23日(金)	10:45 竹富島 石垣島観光 西表島(11:40着) クワラ灰坑跡 祖納集落	ホテル(西表島ジャングルホテル(バイマヤ)
10月24日(土)	08:45 ホテル・大原 石垣島(09:30着) 石垣島 名産集落 14:30 台北 台北南環空港(14:25着) 龍山寺・地下街古い広場	台北南環空港(14:25着) 龍山寺・地下街古い広場

- 八重山でのインタビュー相手…八重山毎日新聞・松田氏が人選し調整
- 祖納集落での懇親会…岸本が集落に依頼し、ビッグホリデーが調整
- 飛行機…ビッグホリデーが調整、中華航空は大浜氏が口添え、ANAは伊豆顧問が口添え
- 八重山での宿泊…岸本・島田の紹介でビッグホリデーが調整
- 八重山での食事…現地ランドオペレーターの手配でビッグホリデーが調整
- 島内移動…岸本の紹介でビッグホリデーが調整(西表島)、小笹氏が石垣市の公用車と運転手を手配(石垣島)

7

モニターツアーの企画・募集

日程	内容	備考
10月25日(日)	<p>08:30開航 赤ゲル 紅茶 臨米熱力温泉 <small>川は清流が流れる自然温泉です、温泉も楽しめるだけでなく、空気が素晴らしいです。</small> 白糸の滝 高来活力村 <small>現在コロナの影響で観光客が減少しています。</small> 台北 台北当代芸術館 <small>九龍山で目を惹くのがこの高層ビル建築が特徴的でした。建築家からインスピレーションを受け、現在は現代芸術館として活用されています。</small> 龍山1914文化创意産業園 <small>日本統治時代の旧米道工場をリノベーションし、現在はカルチャー・スペースとして商業施設やギャラリーの集まる施設として活用されています。</small> ホテル(台北城大飯店 or 美麗華花園酒店) <small>(旅館は自由選択、自由席)</small> (台湾産)</p>	台北当代芸術館 Taipei City Hall 龍山1914文化创意産業園 美麗華花園酒店 台北城大飯店
10月26日(月)	<p>08:45開航 赤ゲル→台北駅(09:20発) → 本島(275分) → 花蓮(11:30着) 花巻 太魯閣峡谷 <small>このエリアは美しい自然、3億年前の造りかたが、雄偉な自然の奇観を創り出し、世界遺産にも選ばれるほどの絶景を堪能することができます。</small> 花蓮 赤ゲル(龍山林業展示館) <small>(台湾産)</small></p>	龍山1914文化创意産業園 太魯閣峡谷 龍山林業展示館
10月27日(火)	<p>藤原冷泉 <small>冷泉で有名なこの冷泉は日本最大の冷泉です。ホテル内では温泉と温泉を併せてお楽しみいただけます。</small> 10:00開航 赤ゲル 南方鯨噴港・南天宮 <small>日本統治時代の建築も、八重山の文化や自然を体感する際の定番です。ぜひ、藤原冷泉の温泉も体感しながらお楽しみください。この冷泉は、お風呂から、温泉を堪能することができます。</small> 13:52 藤原冷泉 → 「自強号1752」 → 石垣(15:47)→定着へ 18:15着 台湾和山空港 → CI2222 21:55(最終乗車) 羽田空港</p>	藤原冷泉 南方鯨噴港・南天宮

- ▶ 台北市内でのコンテンツ検討…石垣市台北事務所・小笹氏が推薦
- ▶ その他台湾での行動全般…現地ランドオペレーターの手配でビッグホリデーが調整

【参加者の募集】

- ▶ 新聞折り込みチラシの配布…羽田空港周辺1万戸配布、毎日新聞
- ▶ 台湾観光協会窓口でのチラシ設置
- ▶ JIBSN、JCBSのメールマガジン
- ▶ 関係者によるfacebookやメール等を活用した個別の情報発信

8

八重山・台湾国境観光の実現に向けた課題

課題①

ツアー実施に向けたパートナーの確保

- ▶ 旅行会社の協力体制が得られない。トップの共感を得られても、実際にツアーを造成する担当者レベルが動かせない
 (これまでの取組で、趣旨を理解し実施に協力的な旅行会社(ビッグホリデー)を巻き込むことに成功したが…)
- ▶ 航空会社が旅行会社に卸す団体商品向け航空券は、「往復での利用」「同一ツアー内での国際線と国内線の利用禁止」など条件が厳しく、正規のルートで造成すると非常に高価な旅行代金になってしまう
 →上記は**法規制ではなくあくまでもビジネス上のルール**であり、航空会社の理解協力が得られれば課題解決は可能

旅行会社や航空会社にとっていかにビジネスに繋がるかという視点も盛り込んで取組を考えると**重要!**

9

八重山・台湾国境観光の実現に向けた課題

課題②

一般旅行者に向けた情報発信方法の検討

- 単発の商品（モニターツアー）は旅行会社の窓口チラシを設置してもらえない
→定番商品の中で国境観光のコンテンツを組み込んだ商品を造成できれば課題解決が可能（ANAワンダーアースのような高付加価値型商品）
- 2013年末に実施した日本初の対馬・釜山モニターツアーでは、地元新聞社が取り上げてくれたおかげで募集が盛況であったが、東京・大阪などの大都市圏では境界研究者のネットワークが弱く、協力が得られにくい。また、ツアーの募集となると記事では扱いにくい。

ボーダーツーリズムの推進協議会のようなものを組織し、メンバーの旅行会社同士が共同でボーダーツーリズムに関連する商品の相互紹介ができないか（A社企画の関連旅行商品を、協議会加入のB社C社でも宣伝する）

- また、協議会を設置することで国の補助金等の受け皿ができる。

10

八重山・台湾国境観光の実現に向けた課題

課題③

地域内関係者への周知、協力体制の構築

- 高付加価値な旅行商品を作るほど、これまで観光コンテンツでなかったものを観光商品に組み込むことが重要であるが（台湾移住者へのインタビュー、祖納集落での伝統芸能鑑賞、ユタへのインタビューなど）、**観光商品として扱われる事への拒否反応**、既存コンテンツでないため旅行会社が把握しておらず調整できない

関係者による事前の根回しが重要！

11

今後の取組予定

モニターツアー実施への再チャレンジ

- **今夏にモニターツアーを実施予定で計画中。**
- 現時点で一般旅行者のみを対象にしたツアーは実現可能性が低いことが分かったため、境界研究者やマスコミをメインターゲットとし、+αで一般参加者にも告知する。
- 旅行会社には企画旅行（パッケージツアー）ではなく手配旅行での企画を依頼。飛行機移動は全て個人手配を予定（実際は事務局で個別手配の予定）
- 居住地から八重山・台湾までの渡航費も含めて**総額15万円以内**となるよう準備中。

12

ご清聴

ありがとうございました！

13